



年間第 17 主日 (マタイ 13:44-52)

あなたにとっての高価な真珠とは

「高価な真珠を一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。」(13・46) わたしが今週取り上げたい箇所です。わたしたちも高価な真珠を一つ見つけることにしましょう。

高価な真珠が一つあると、その人は持ち物をすっかり売り払うと言います。わたしはこれを、「何物にも代えられない価値観」のことではないかと考えました。価値観とは、ものの見方や考え方のことですが、わたしたちに何物にも代えられないものの見方が身につけば、それは他のどんなものを手放しても惜しくないと思えるようになります。

例を挙げてみましょう。まずは人に対する見方です。「どんな人にも、必ず良いところがある。」これは人に対する価値ある見方だと思います。イエスは、どんな人にも天の国に迎えられる価値があると呼びかけました。当時の宗教指導者が切り捨てた人々にも天の国に招かれることができるかと語りました。イエスのように、わたしたちもすべての人に心を開き、その人のよいところを見つけようとする見方は、なにものにも代えられない価値あるものではないでしょうか。

次に、「どんなことにでも感謝する。」これも、わたしたちの生き方をすっかり変えるものの見方だと思います。イエスはご自分の教えが指導者たちに受け入れられない中でも、父なる神をほめたたえました(マタイ 11・25 参照)。周囲の無理解の中でも、神に感謝することができたのです。

ある人にとっては今日一日が、これ以上ない辛い日と感じるかもしれませんが、そんな一日であっても、今日一日を神に感謝する。変わらずにこの態度を貫くことは、何にも代えがたい生き方ではないでしょうか。

最後に、「わたしは神に愛されている。」これも、わたしたちがほかのどんなものの見方を横に置いてよい考え方は、イエスはご自分を死に追いやる人々に対しても、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカ 23・34) と祈りました。イエスは誰も裁かず、すべての人を愛してくださったのです。イエスがわたしを愛してくださっている。だからわたしも、人を愛することができます。

3つ、例を挙げてみました。あなたにとってのかけがえのない宝が、人生の中に必ずあるはず。神さまは必ずその宝に出会わせてくれると思います。その時を逃さず、ほかのものに目をやらず、神が示してくれた宝を手に入れたいものです。

今日、子供たちは 11 小教区が集まっての球技大会に参加します。試合ですから、勝ったり負けたりするでしょう。けれども、練習したことを試合の中で発揮できたら、勝ち負けの向こうにあるものの見方に触れるのではないかと考えています。それは、しなければならないことをした上で、すべてを神さまに委ねるという態度です。毎回、この姿勢で

球技大会に臨めば、球技の結果とは別に、子供たちは高価な真珠を一つ
見つけることになるのではないかと思っています。

年間第 18 主日(マタイ 14:13-21)